



野口彌太郎大回顧展開催！

諫早にゆかりのある洋画家・野口彌太郎の作品を一堂に集めた「諫早市市制施行（合併）10周年 諫早市美術・歴史館開館1周年記念 野口彌太郎大回顧展」の開会式が2月28日、諫早市美術・歴史館で行われました。式では、野口彌太郎の長男の一太郎氏が「このような形で展覧会を開いていただき、遺族として大変ありがたい。父もきっと喜んでいるでしょう」とあいさつされました。

彌太郎の作品を、時代を追って鑑賞することができる今回の展覧会では、大作「パリの眺め」や、晩年の代表作「那智の滝」など87点を展示しています（5月6日まで開催）。

作品紹介



「パリの一隅」1932 諫早市美術・歴史館所蔵

野口彌太郎（のぐちやたろう 1899 - 1976）は、二科展や独立美術展、国際形象展を中心に、日本洋画壇で活躍したフォービズムの画家です。

若い頃、二科展で活躍し、1929年に29歳でヨーロッパに渡ります。パリにアトリエを持ち、グランド・ショミエール研究所に学び、サロン・ドートンヌに出品しました。

この「パリの一隅」（1932）はアトリエの窓からの景色を描いたとされる作品です。

※フォービズム（野獣派）は、20世紀初頭の絵画運動。

（次ページへ続く）

■ 作品紹介



「漁村 (江之浦)」1947 諫早市美術・歴史館所蔵

1933年に帰国した彌太郎は、独立美術協会に所属します。この「漁村 (江之浦)」(1947)には諫早の江ノ浦の漁村風景とそこに暮らす人々の姿が描かれています。彌太郎が人々の生活する風景に親しみを感じ、数多く作品にしているのは、幼少の頃半年程、父の実家である諫早の小野で過ごした、素朴で飾らない田園生活が根底にあったためといわれています。



「働く人々」1957頃 諫早市美術・歴史館所蔵

終戦後、彌太郎は日本各地を旅行し、絵を描きました。諫早に隠棲した両親に会うため、長崎や諫早にも度々訪れ作品を描いています。

「働く人々」(1957頃)は海辺で働く人々の姿を描いたとされる油絵です。この作品には見たままを描くのではなく、自身の目で対象をとらえ、形を大胆に単純化し、荒々しい線と鮮やかな色彩を用いて描く、フォービズムの特徴がよく表れています。



「ヴェニス」1966頃 諫早市美術・歴史館所蔵

1960年、60歳でおよそ30年ぶりにヨーロッパに渡ります。各地を取材し、ベラスケスやゴヤ、エル・グレコなどのスペイン芸術から影響を受けます。夕日に輝くイタリアのヴェニスの街で、刻々と変化する鮮やかな色彩の美しさに感動し、自身の絵の色彩も明るく鮮やかに変化します。

この「ヴェニス」(1966頃)は夕ぐれに染まるイタリアのヴェニスの街を描いた作品です。



「コンコルド広場」1973 諫早市美術・歴史館所蔵

1962年に帰国後、国内外各地を題材とし、対象の特徴をさらに端的にとらえ、ヨーロッパに影響を受け洗練された色彩と、水墨画のように自由に流れる筆致で、独自の画風を完成させます。

国際形象展に出品し、「セビラの行列」と野口彌太郎滞欧作品展の業績により毎日芸術賞、国際形象展に出品した「那智の滝」により芸術選奨文部大臣賞を受賞します。その後勲三等瑞宝章を受け、日本芸術院会員となります。

「コンコルド広場」(1973)は晩年に描かれたもので、フランス・パリの中心部にあるコンコルド広場を題材にしています。



鍾馗像 (しょうきぞう)

大正 14 年 (1925) 製 像高 65.8cm 像幅 42.0cm

この像は内田甕山焼 (うちだかめやまやき) で、茶臼山 (西郷町) の西麓で焼かれたものです。内田甕山焼は江戸時代末期に開窯した小松甕山焼を明治初年に引き継いで、土管、甕、鉢、瓦等を焼いていましたが、はっきりとした閉窯の時期は不明です。

鍾馗さんは無病息災の守護神で五月五日の端午の節句の際に旗や幟に描かれています。鍾馗は日本固有の神ではなく、「唐の玄宗皇帝が死の苦しみのさなか夢に出てきた鍾馗を描かせた」という伝説から始まったといえます。日本では室町時代から鍾馗に対する信仰が流行し、悪鬼や疫病を払う神とされ、疱瘡除けには顔を赤く塗ったものを祀っていました。像はユーモラスで親しみやすい姿をしています。

(参考：『日本の神様読み解き事典』)

- 展示中の資料から -

- 諫早市指定有形文化財 -

きんせんじのふどうみょうおうとにどうじりゅうぞう

金泉寺の不動明王と二童子立像



制吒迦童子（せいたかどうじ）

制吒迦童子立像：高 52.7cm

檜、針葉樹材一木造、平安後期

八大童子のひとり。不動明王の波羅蜜（人々の救済のためにおこなう実践行）の徳をつかさどる。右手に金剛棒、左手に三鈷を持つのが多い。怒りの相であるのが普通で、この像もそうした彫りが見える。不動明王の右に立つ。

不動明王（ふどうみょうおう）

不動明王立像：高 87.6cm

針葉樹材一木造、平安後期

大日如来の教令（教え、衆生を益すべきという大日如来の教勅）に従い、その教令をもって人々を守護する如来の使者で、憤怒の相を呈する。五大明王、八大明王の主尊。不動とはたじろがないということで、起源は不明だが山岳神のイメージが取入れられ修験道と強く結びつき行者を守護し導く。右手に利剣、左手に羂索を持つ。この像は右目を見開き、左目は細く眇め、口元は右下の牙で上唇を左上の牙で下唇を噛む不動十九観での造りである。また頭髪の造りも特異で全体に素朴な姿である。修験の場である多良岳に伝わり、霊峰にふさわしい尊像であり、現在までも広く尊ばれている。

矜羯羅童子（こんがらどうじ）

矜羯羅童子立像：高 50.9cm

檜、広葉樹材寄木造り、中世中頃

八大童子のひとりで、命ぜられたことをする者、仏の教えに恭順する者。合掌して金剛杵を親指と人差し指の間に横にはさんだ姿が多い。不動明王の左に立つ。

催し案内 （諫早市美術・歴史館が行う企画展や、貸室の主な催しを紹介します）

| 5月開催予定 | |
|-----------------|---|
| 趣味からの木彫展 | ■とき : 5月15日(金)～20日(水) ■ところ : 2階企画展示室3 ■問い合わせ先: 中園さん (Tel. 0954-68-2147) |
| 小原流 諫早支所 みんなの花展 | ■とき : 5月16日(土)～17日(日) ■ところ : 1階ホール ■問い合わせ先: 福島さん (Tel. 0957-23-4160) |
| 第40回記念長崎県書道展 | ■とき : 5月23日(土)～28日(木) ■ところ : 2階企画展示室1・2・3 ■問い合わせ先: 長崎新聞社事業部 (Tel. 095-844-5261) |
| 6月開催予定 | |
| 宮崎圭介遺作写真展 | ■とき : 6月4日(木)～8日(月) ■ところ : 2階企画展示室1 ■問い合わせ先: 松尾さん (Tel. 090-3738-4217) |
| 諫早家家臣寄贈資料展(仮) | ■とき : 6月24日(水)～7月26日(日) ■ところ : 2階企画展示室1・2・3 ■問い合わせ先: 美術・歴史館 (Tel. 0957-24-6611) |

| 美術・歴史館 館長講座 |
|--|
| ■とき : 6月20日(土) 午前10時30分～正午 |
| ■ところ : 2階研修室 |
| ■内容 : 「諫早の七不思議(第1回)」 ～なぜこんなにクスノギが多いのだろうか～ |
| ■講師 : 鈴木勇次(美術・歴史館館長) |
| ■対象 : 高校生以上(定員30人) |
| ■その他 : 受講料無料、当日参加可 |
| ■問い合わせ先 : 美術・歴史館 (Tel. 0957-24-6611) |

諫早市美術・歴史館だより 第3号<年3回発行>

〒854-0014 諫早市東小路町2番33号

TEL: 0957-24-6611 FAX: 0957-24-6633

E-mail: bireki@city.isahaya.nagasaki.jp